

銀漢亭日録



伊藤伊那男

8月19日(火)

▼「火の会」十人。齊藤朝比古さん久々。三笠書房会長、清人さん。今日は「俳句の日」(八一九)とか。

20日(水)

▼「雛句会」十一人。「三水会」八人。野沢君という高校卒業以来の同期も。その他、「天為」「炎環」の方々などで賑やか。金融会社時代の宮内さん、藪さんという美女も。藪さんはイタリア人と結婚しイタリア暮らし。娘さんと帰省と。同郷の岩波書店OBの今井さん。父上が岩波だったという折田さん夫妻と。夫人の父上は日本オイルシールのオーナー。慶応の私の二年先輩。夫人は東京女学館から成蹊大学と。私の次女・杏と同じコース。二年程先輩。初対面ながら盛り上がってしまう。菅原庄山子さんからまたまただだ茶豆沢山到来す。

21日(木)

▼菅原庄山子さんより基金三万円到来。「銀漢」誌を楽しみにして下さる。有り難し。「銀漢句会」と十六人。池田のりを、初子さんなど。角川書店・滝口さんに井月本の原稿一部渡す。九月末迄に書き上げる約束す。

22日(金)

▼「門」同人会に発行所貸出して、十三時半開錠。句会あと九名店へ。鳥居真里子さん座長。発行所は夜、「金星句会」あと八人。谷岡健彦さん第一句集「若書き」上梓。「りいの」主宰檜山哲彦さん夫妻で。堀切克洋君、明後日の便でバリへ戻ると。明日、健康診断にて酒飲めず。

23日(土)

▼八時半、とよしまクリニクにて健康診断を受ける。昨日、家族、沖縄から戻っており、久しぶりの顔合わせ。子供達真っ黒。十三時より、有楽町よみうり

24日(日)

▼夜中、階下で騒ぎ声が聞こえるのをほんやり聞く。昨夜は成城の親仲間で食事会があり、その後家で二次会をし、結局お開きは二時頃であったという。とにかく遊び最優先の人達である。朝から井月についての文章、昨夜酒場で書き殴った文章をもとに「銀漢」のエッセイ四回分一氣に書く。夜、成城駅の居酒屋。親仲間五家族、二十人位の宴会に参加す。往路、今日は調布の花火大会を遠望す。

25日(月)

▼ニュージージラントのジリアンさん来日歓迎会。朽木直、三輪初子さん幹事。十八人集合。兼題四句の句会と親睦会。大住光汪君久々。ヴーヴクリコ二本空ける。

27日(水)

▼新潟日報・大日方さん、週刊金曜日・伊達さん。麒麟さん、鈴木真砂女の孫・今田さんと。「卯波」を畳み、コンゴの日本大使館の料理人として赴任と。

29日(金)

▼新宿発九時、あずさ号。茅野駅で大野田好記君の車に迎えてもらい伊那北。「来々軒」のローメン。高校時代、お互いに馴染んだ店。「いなっせ」にて「井上井月顕彰会」の総会。十四時より座談会に出席。あとは懐かしい喫茶店「門やません」へ。「俳句」の鈴木編長、滝口さん、新潟日報・大日方さんを案内してローメン、ソースカツなどで酒盛り。十八時より、高橋竹山の津軽三味線。惟然の風羅念仏の再現よし。後、大会賞受賞の「雲の峰」同人会長・高野清風さん、

30日(土)

「銀漢」の仲間と焼鳥店。朝妻さんから「森伊蔵」一本届いている。
▼十時より「信州伊那井月俳句大会」の表彰式。選評五分程。昼、小池百人君とばったり会い、喫茶店。午後、当日句の選句発表。唐沢静男君選者。石寒太講演会。終了後、「銀漢」の仲間で天竜川の入舟の舟着場など散策し、「だるま」にて親睦会。「高遠句会」の加藤恵介、三溝恵子さん来てくれる。三句出し句会。ホテル泊。

31日(日)

▼大野田、加藤君の車で手良へ。「井上井月顕彰会」堀内功会長の屋敷に寄る。突然ながら庭や井月句を見せて下さる。九十五歳になれるがお元氣。清水庵の井月筆の扁額を見る。高遠そば「ますや」絶佳。六波羅霞松宅跡。三峯川土手散策。青島の橋爪玉斎の子孫を訪い、井月像、作品多数を拝見。上諏訪の片倉館に入り、茅野駅からあずさ号にて帰京。車中酒盛り。睡眠。

9月4日(木)

▼ずっと原稿書き。家族は早朝からデイズニールランド。まだまだ夏休みが続いている。店「十六夜句会」。大野田、酔馬さんゲスト。あと九人店。
▼井月本の原稿書き続ける(井月の酒・食)。夕方、英二郎君と孫二人来る。否は悪阻酷く、家を出られず。食事会。孫達泊まり。

5日(金)

▼「春耕同人句会」中野サンブラザ。終わって「炙谷」にて親睦会。帰宅して井月本原稿を書く。

7日(日)

▼新学期スタート。皆、お弁当を持って学校へ。店「名月句会」。超結社三十人。三句出し四句選、内特選一。朽木直さん仕切ってくれる。終わる頃、星野高士さん、山田真砂年さん、「ウエップ俳句通信句会」の後寄ってくれる。

9日(火)

▼「火の会」十人。西村麒麟君他若手十人位。やはり若者は元氣。満月の日。帰宅途中、下を向いていたか、

満月を見逃す。
▼発行所「梶の葉句会」の選句。物凄雨。店、閑散。中島凌雲君来る。店閉めて「大金星」で凌雲君を囲む。

10日(水)

▼午前中、平成俳壇選句、一日遅れで仕上げ。井月原稿の整理、六、七割までは書き下した感じにて、あとは何を書くかなどの調整。高遠、三溝恵子さんより井月の資料到来。先月、訪ねた伊那・橋爪家への問い合わせの回答到来。松山さん、前田さんと。皆川文弘さん来て駄洒落大会。

11日(木)

▼井月本の原稿書き継ぐ。店、閑散。二十一時過、小野寺清人さんの兄上・信一さん、娘さん、友人の女性弁護士と来店。対馬康子さん来て合流。お開きの後、対馬さん、女性弁護士、清人さんらと餃子屋。

13日(土)

▼午後、麹町会館にて「銀漢本部句会」。十八時から一番町分室を借りて拡大編集会議、十七名。来年の編集方針についての討議。あと、有志で近くの中華料理店で慰労会。

14日(日)

▼八時四十分、小田急鶴川駅。久重凜子さんの「早蕨句会吟行会」に招かれて杉阪大和さんと。小野路散策。何と二十五人。小野路城址、小町井戸、田極家、と万松寺谷戸など実に素晴らしい吟行コース。快晴。小野神社を経て小野路宿里山交流館にて昼食。鶴川駅に戻りボブリホールにて句会。あと講話。十七時、居酒屋にて親睦会。あと幹部の方々と二次会となったが、どの店も満員にてカラオケ店に。久々歌う！

15日(月)

▼六時起床し、井月本の原稿書きまくる。家族は早朝から奥多摩へ学校仲間と虹鱒釣り、鍾乳洞へ。夜、その仲間と二子玉川の「漁火」という居酒屋。五家族大人十一人、子供十二人で大騒ぎ。敬老の日ということで私は招待。